

## 採 択 理 由

## 東京書籍「新しい国語」

- 各学年で児童に身に付けたい力を「言葉の力」として、巻頭及び各単元の冒頭で明確に示すとともに、系統的・段階的に配列することで、6年間を通じて「言葉の力」を着実に身に付けることができるように配慮している。単元の学習過程を「見通す」→「取り組む」→「ふり返る」の3ステップで構成し、児童が課題解決的に取り組むことができるよう工夫している。また「言葉の力」の系統性や学習過程を児童にも分かるよう明確に示すことで、主体的な学びにつながるよう配慮している。さらに、情報の取り扱いについて学ぶ新教材「情報のとびら」を「読むこと」の単元と「書くこと」の単元の橋渡しとして位置付け、各領域のねらいを焦点化させつつ、論理的思考力を高められるように工夫している。
- 現代を生きる等身大の小学生を描いた文学的文章や、環境問題等の現代的テーマを扱った説明的文章など児童の興味・関心が高まる教材を掲載している。また、新設された「言葉相談室」では、文法事項のつまずきやすいポイントについて、キャラクターによるエラーモデルなどから導入を図り、児童が自ら学習課題を見いだせるように工夫している。さらに、教科書紙面上にインターネットコンテンツが豊富（600程度）に用意され、説明文の資料動画や練習問題、タイピング練習など内容も充実している。デジタルノートは、児童が調べたことや考えたことを整理できるように配慮するとともに、学ぶ意欲が高まるよう工夫している。
- 学びの基礎となる「ノート作り」「対話」「音読」「図書館利用」についての単元・教材を巻頭に配置して、1年間の学習で活用できるよう工夫している。他教科と合科的・関連的な指導、家庭や地域との連携を図ることができる教材や題材を積極的に取り上げている。また、1年生の教材では、入門期の児童が、つまずきやすい読み書きのポイントについて記号による視覚化や手を叩いたり握ったりする動作化を取り入れることで全ての児童が負担を感じることなく楽しく学べるように配慮している。

## 採 択 理 由

## 東京書籍「新しい 書写」

- 文字を書くことが苦手な児童や、左利きの児童など、多様な子どもたちが楽しく書く学習に取り組むことができるように、原理・原則や意識させたい学習内容の焦点化を図っている。それにより、児童全員が共通課題をもちながら、個人差に応じた学習展開に取り組みやすくなっている。自己評価の欄も、自分がより良く書けるようになったところを評価できるように、観点を「考えた」「分かった」「書けた」にして工夫している。
- 問題解決的に学習を進めやすく、児童が主体的に学ぶことができるように、巻頭で示された「書写の学び方」に沿って、各単元が「①見つけよう」「②確かめよう」「③生かそう」<ふり返ろう>という一連の流れで構成されている。さらに、教師もこの流れに沿って授業を展開することで、単元の目標を達成できるように工夫している。
- 児童の発達段階に即して知識・技能を指導できるように、「書写のかぎ」というコーナーを設け、各単元で学習する内容をまとめている。さらに、相手や自分のよさに気付き、集団での学びが効果的になされるように、会話を表すマークを用いて対話的な学びの観点を明確にしている。その問いかけに従って対話することにより、書写に関する思考力・判断力・表現力を身に付けることができるように工夫している。

## 採 択 理 由

## 東京書籍「新しい社会」

- 「つかむ・調べる・まとめる・いかす」の学習段階をたどりながら問題解決的な学習を分かりやすく進めていくことができるよう工夫されており、社会的な見方・考え方を働かせ、学習問題を追究したり解決したりする活動の充実が図れるように工夫している。各学習段階では、学習活動を「学びのポイント」として例示することにより、小単元を通して主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫している。特に「まとめる」段階では、まとめ方を丁寧に示しており、表や紙芝居で表すなど、言語による表現力を育成するとともに、習得した知識を定着できるように配慮している。
- 児童自らが学習問題を見つけ出すことができるような資料を提示するとともに、学習問題について予想し、学習計画を立てるという学習の進め方が明示されており、見通しをもって問題解決的な学習に取り組むことができるよう配慮している。また、小単元の終末には、社会生活に生かしたり、提案・発信したりする学習活動が提示されており、社会の一員としての自覚を養うことにつながるよう工夫している。さらに、東日本大震災、福島盆地の果物（桃）づくりなどの身近な地域素材を教材化して取り上げ、本市の児童が身近な地域社会への理解を深め地域社会に対する誇りと愛情を育てられるよう配慮している。
- 学習場面に応じてワークシートや思考ツール、取材した現地の人のインタビュー動画、クイズなど多様なコンテンツにつながる二次元コードを教科書の該当ページに配置することで、一人一台端末を活用して「個別最適な学び」「協働的な学び」のどちらにも対応できるように工夫している。また、巻末の索引が充実しており、効率的に調査活動を進めることができるよう配慮している。5・6年生は、分冊になっていることで、児童が持ち運びする際に教科書の重さや厚さが負担にならないよう配慮している。

|    |     |
|----|-----|
| 種目 | 地 図 |
|----|-----|

## 採 択 理 由

### 帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」

- 初めて社会科を学ぶ3年生への指導に対応するために、基礎知識にかかわることを巻頭から重点的に取り上げ、児童の学習意欲を高め、個に応じた指導に対応できるよう配慮するとともに、学習の充実発展を図ることができるように工夫している。また、「日本の統計」資料では、都道府県別の統計に加え、主な農産物、工業製品の生産の情報が最新かつ詳細であり、様々な調べ活動に活用できるよう工夫している。
- 世界地図では、主要な国名、首都名、生活のようすが伝わる写真、外国から日本へ伝わった言葉、物語や音楽の舞台となった場所などを紹介するなど、他教科や他領域への横断的な活用ができるよう工夫している。また地球的課題の把握のために「世界のSDGs」を随所に取り上げ、持続可能な社会の実現を目指す視点を養うことで、今日的、世界的な課題を解決するきっかけとなるよう、工夫している。
- 「地図マスターへの道」では、位置や空間的な広がり、季節や時間の経過、社会的事象や人々の土地活用の様子が学習できる。二次元コードは、地図、地図クイズや映像資料、統計資料など様々な資料につながっており、資料活用能力を高めるコンテンツが収録され地図の活用の技能が身に付くとともに自主的な学習が進められるよう内容を工夫している。日本における火山や地震、洪水などの自然災害を取り上げており、発展的に防災マップづくりなどを取り上げることで、自然災害に関する理解を深めるとともに、児童が主体的に防災・減災を学べるよう工夫している。

|    |     |
|----|-----|
| 種目 | 算 数 |
|----|-----|

## 採 択 理 由

### 東京書籍 「新しい算数」

- 単位時間ごとに児童の連続した思考を促すために「焦点化された課題の提示」→「見通しをもつための補充発問」→「考えを共有するためのキャラクターの吹き出し」→「簡潔な表現でのまとめ」→「適用をはかり振り返るための練習問題」という構成となっている。このことにより、学習を進める中で児童が自ら課題を見だし、自他の考えを比較しながら、問題を解決する力や考えを表現する力を伸ばすことができるよう工夫している。また、教科書に二次元コードを多く掲載し、それらのコンテンツを児童が自ら活用して学ぶことができるようにしている。課題解決の場面において操作しながら思考を繰り返したり、友達と協働的に学んだりしながら学びを深めることができるよう工夫している。さらに、自分の学びを振り返り深めることができる動画や適用問題が設定されており、個別最適な学びにも対応できるよう工夫している。
- 「同じように考えると」「それなら」などの記号を新設し、既習を生かして考えようとする態度や力の育成、および自ら課題を見だし解決しようとする態度や力の育成を図ることができるよう工夫している。また、親しみやすい図や絵を用いて分かりやすく表現することにより教材に即した思考を生み出し、児童の思考力・判断力・表現力を引き出し、高めることができるよう工夫している。
- 算数の入門期となる1学年では、その発達段階を踏まえ最初の「A数と計算」の単元を大判の分冊に分けて教科書に書き込んだり教科書上でブロックの操作をしたりしながら、学習に取り組みやすくなるよう工夫している。また、ブロックを教科書の上に置いて操作活動を容易にするため、段差なく完全に開くことができるよう工夫している。全学年を通してノートに書きやすいシンプルな記号を取り入れながら、色数や色調を抑えて学習に集中できるようにするなど、ユニバーサルデザインにも配慮している。また、フォントの大きさ、太さ、文字の強調、余白など、各学年の発達段階に応じて適切に設定している。図、表、数直線の大きさや量も適切であり、見やすく分かりやすい構成となるよう工夫している。

|    |    |
|----|----|
| 種目 | 理科 |
|----|----|

## 採 択 理 由

### 啓林館 「わくわく理科」

- 単元の配当・順序がよく考えられている。内容の系統性を考え、児童の学びや意欲を持続させることができるように単元の配列を工夫している。また、各学年の巻頭では、問題解決の過程を見通して、どのように理科の見方・考え方を働かせていくのか分かりやすく、端的に例示してあり、主体的に学習に取り組むことができるように構成している。さらに、問題解決の過程で、実験で得たデータから関係性やきまりを導き出すために、グラフや表を利用し、理科の見方・考え方を働かせられるように工夫している。
  
- 「問題をつかもう」や「予想・計画」、「結果から考えよう（考察しよう）」などの話合いの活動の場面では、キャラクターの吹き出しの言葉のポイントとなる部分にアンダーラインが付いており、主体的に理科の見方・考え方を働かせることを促すように工夫している。また、SDGsマークが随所に設けてあり、「SDGs」との関連を図り、自然を愛する心情や生命を尊重する態度を育むことができるように工夫している。
  
- 全学年に二次元コードによる「やってみよう！プログラミング」が設置しており、3年からプログラミングを体験しながら、論理的思考を育むことができるように工夫している。特に、6年の「発電と電気の利用」では、電気を無駄なく使うプログラミングの活動があり、プログラムの結果をアニメーションで確認できるシミュレーターを配置するなど工夫している。

|    |    |
|----|----|
| 種目 | 生活 |
|----|----|

## 採 択 理 由

啓林館 「わくわく せいかつ上」

「いきいき せいかつ下」

- 児童が幼児期に育まれた資質・能力を発揮しながら、小学校での生活への見通しを明確にもつことができるように配慮しているとともに、自信と意欲をもって3年生の学びへつなぐことができる資料単元を設定し、2年間の学びのまとめをもとに3年生へのスムーズな接続を図ることができるように工夫している。また、他教科等とのつながりの例は豊富で、紙面の随所に他教科との関連を示すマークが掲載されていて、児童が他教科等との関連を意識しながら学習を進めることができるように配慮している。さらに、全ての単元が児童の思いや願いからスタートし、体験活動と表現活動が交互に展開され、まとめの場面では充実した交流や振り返りができるように工夫している。
- 調べたことや体験したことを、様々な表現方法でまとめることができるように、イラストを使ってわかりやすく提示していることから、児童が伝え合いながら互いの学びを深める配慮をしている。また、児童の思いが連続して続いていくような構成になっており、主体的な学びができるように配慮している。さらに、児童の健康安全を保障したり、児童の学びが停滞したときに役立ったりするコーナーがあり、基本的な生活習慣や技能が身に付くように工夫している。
- 学研との共同作成による「びっくりずかんL I V E」の鮮明な写真を見ることで、児童の知的好奇心や探究心がくすぐられ、学びがさらに広がっていくように工夫している。また、二次元コードが大変豊富で、動画や音声をはじめ、クイズや様々な情報がリンクしていて児童の興味・関心が高まるように工夫している。さらに、豊富な巻末資料により、必要に応じて個に応じた指導や理解度に合わせた指導が行いやすいように配慮している。

|    |    |
|----|----|
| 種目 | 音楽 |
|----|----|

## 採 択 理 由

### 教育芸術社 「小学生の音楽」

- 児童の発達の段階に応じて学年内での学習のバランスを考慮して題材を構成している。また、6年間を見通して各領域や分野の関連が図られるよう系統立て、児童の学びが積み重なっていくよう配慮している。
- 教材ごとに、音楽科で育成すべき資質・能力に対応した「何を学ぶか」「何ができるようになるか」といった学習活動を明示し、音楽を形づくっている要素を無理なく捉え、それを生かして表現や鑑賞の活動が進められるよう工夫している。また、1つの題材の最後に、学んだことを振り返る内容を明示し、次の学習につなげていけるよう配慮している。
- 福島市出身の箏曲演奏家（遠藤千晶氏）をはじめ、著名な指揮者・歌手など、音楽に関わる人々の言葉や写真を掲載し、児童の興味・関心を高めるよう工夫している。
- 児童が親しみやすい曲想や、学習内容を理解しやすい歌詞のオリジナル曲により、関心をもって学習できるよう工夫している。
- 児童が思いや意図をもって学習に取り組むために、音楽づくりにおけるリズムや旋律の例、鑑賞の視点、話し合いの例が適切に示し、それらをもとに話し合ったり、学習を深めたりできるよう配慮している。さらに二次元コードを通じた資料が各所にあり、児童が試行錯誤しながら、よりよい音楽をつくることができるよう工夫している。



|    |      |
|----|------|
| 種目 | 図画工作 |
|----|------|

## 採 択 理 由

### 日本文教出版「図画工作」

- 学習のめあてが観点ごとに示され、児童が学習の目標を意識しながら活動できる。鑑賞に関わる資料が豊富で鑑賞のポイントが明記されているため、対話的な学びを通し豊かな感性が育まれるよう工夫している。魅力ある題材の設定と分かりやすい制作の手順提示により、どの児童も主体的に学習に取り組むことができるよう工夫している。
- 鑑賞作品や資料が効果的にレイアウトされ、表現と鑑賞を往還しなら造形的な資質・能力を高めることができる。巻頭にオリエンテーションページを設け、見通しをもって学習できるよう配慮している。児童に気付かせたいことや学んでほしいことを、吹き出しやイラストで分かりやすく示し、表現活動に取り組みやすいよう工夫している。
- 写真で制作の手順を分かりやすく示し、児童が抵抗なく活動に取り組むことができるよう配慮している。インターネットコンテンツで技法や安全面への配慮などが確認でき、充実した学びにつながるよう工夫している。文字フォントや色づかいなどのユニバーサルデザインや特別な支援が必要な児童への配慮、SDGsといった現代的な諸課題へ対応できるよう配慮している。

|    |    |
|----|----|
| 種目 | 家庭 |
|----|----|

## 採 択 理 由

### 開隆堂「わたしたちの家庭科」

- 題材の数が多く設定されており、5学年ではスモールステップで反復学習をして基礎基本の定着を図ることができるようにしている。6学年では前学年で学習した技能が向上できるようにしている。また衣食住の題材では、平易なものから段階的・系統的に学習できるようになっており、児童の発達段階に応じて、知識・技能を定着できるよう工夫している。
- 最初の題材の導入である小題材名を「なぜ・・・なのだろう」という児童の言葉による疑問文で設定することにより、課題解決への意欲をもち、学ぶ必要感を高めることができるよう工夫している。さらに、活動中に出ると想定される疑問や、気づきを吹き出しで書いているため、それをきっかけに話し合うことで、児童自ら考えを広げたり深めたりするような仕組みにしている。
- 各ページに活動の様子が分かる具体的な写真や挿絵を配置し、児童が製作や実習の要点を捉えやすくなるよう工夫している。また、各ページに記載された二次元コードを活用することで、個の技能に応じて学習に取り組めるよう工夫している。文字は、ユニバーサルデザインフォントを採用しており、配色にも配慮している。また、1つの単語が行をまたがないように調整したり、実習や調理手順の写真を横流れに提示したりする等、全ての児童にとって使いやすいよう工夫している。

|    |     |
|----|-----|
| 種目 | 保 健 |
|----|-----|

## 採 択 理 由

### 東京書籍「新版 新しい保健」

- 全単元において、学習の流れが「ステップ1：気づく・見つける」「ステップ2：調べる・解決する」「ステップ3：深める・伝える」「ステップ4：まとめる・生かす」の4ページ構成・配置で統一されており、学習指導要領で示されている保健の見方・考え方を働かせた授業が展開されるよう工夫している。毎時間ごとのまとめでは、キーワードを押さえて学習のまとめをしたり、学んだことを生かして振り返ったりすることとおして、学習内容の定着を図るとともに、さらなる学びにつなげることができるよう工夫している。
- 「ステップ1：気づく・見つける」で児童の気づきを引き出した後で、次ページの学習課題を確認する構成となっており、学習課題を自分ごととして捉えることができるように配慮している。「ステップ2：調べる・解決する」では、図や写真、実験結果など、考えるために必要な資料を適切に掲載している。さらに、各ページに自分の考えを書き込む欄があり、自分の考えをもって話し合ったり、教科書を使って振り返ったりすることで、思考力や表現力を高めるとともに、理解が深まるよう工夫している。
- 随所に、補足や補充資料として、技能の手本となる実習や実験の動画、アニメーションによる事例や現象の説明、直接書き込み可能なワークシートなどのQRコンテンツ、SDGsを学べる特設サイトが設けられており、その内容は大変充実し、児童の興味・関心を高めながら理解を深めていけるよう工夫している。

|    |     |
|----|-----|
| 種目 | 外国語 |
|----|-----|

## 採 択 理 由

### 東京書籍「NEW HORIZON Elementary」

- 学習指導要領が定める「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」を育成するために、5年では「日本でつながるわたしたち」を、6年では「世界とつながるわたしたち」をテーマにスモールステップの単元構成で4技能5領域をバランスよく育成できるよう工夫している。
- 教科書に掲載された二次元コードを通じて閲覧できる「日本探検」や「世界探検」などのQRコンテンツが5・6年合わせて650以上もあり、児童の習熟度や興味・関心に応じた個別最適な学びをサポートできるよう工夫している。
- 学習の流れがOur Goal（単元のゴールをクラスで確認する）→Your Plan（自分の伝えたいことを考えて学習の見通しを立てる）→Your Goal（単元の目標となる活動を行う）という、児童が言語活動を行う目的を常に意識することができるように配慮している。
- ワークシートを別途用意する必要がないように紙面に豊富な書き込みスペースを設けたり、絵辞書である「My Picture Dictionary」を分冊化したりするなど工夫している。

|    |     |
|----|-----|
| 種目 | 道 徳 |
|----|-----|

## 採 択 理 由

### 学研教育みらい「新版 みんなの道徳」

- 編成の最重点テーマを「いのちの教育」とし、その教材を3つずつ配置している。「いのち」について考えるユニット教材により、自分の命からみんなの命へと視野を広げながら「生命に対する畏敬の念」を深め、「自己の生き方」について見直すことができるよう配慮している。また、「いのちの教育」からいじめを生まない力を育てることを意図して編成している。さらに、情報モラル、いじめ、人権、ジェンダーフリー等に関わる教材を多数取り上げるなど、本市の児童が向き合う現代的な課題について考えを深めていけるよう編成している。
- 「心のパスポート」では、教材文に関連した情報を提供し、児童が多面的・多角的に考え日常生活に繋げていけるように工夫している。また、「私たちと情報」では、児童の発達や成長に合わせた事例を取り上げ、健全な情報モラルを身に付けられるよう配慮している。
- 低学年は一つの教材文の分量を少なめにまとめている。高学年の教科書では、親和性の低い語句や難解な語句の意味を脚注で明確に示しており、教材文の理解がしやすいよう配慮している。